RENOVATION 09

築50年超の家に
新たな「流れ」をもたらすリノベーション

Builder：まつけんのリフォーム／松代建設工業株式会社
（デザイン協力：トベアーキテクト一級建築士事務所）
Place：長野市　Family：夫婦、子ども２人

新築や建て替えが制限される市街化調整区域にある古い家で、新しい家族の物語を紡いでいく。リノベーションはそのための必要不可欠な選択でした。新たな暮らしの舞台は土間と吹き抜けが開放的でモダンな空気を放つ明るい住まい。思い出の詰まった懐かしい家の風情が随所に息づく、リノベーションだからこそ実現した空間です。

放っておけば劣化が進む
市街化調整区域の空き家をなんとかしたい

Aさん一家が譲り受けたのは、奥様の母方の実家。昭和40年代に建築された和風住宅で、いくつも連なる広い畳の部屋を欄間、ふすま、障子などの建具で仕切る典型的な日本家屋の間取りでした。

第一子を授かったのを機に移り住んだものの、数年の空き家期間を経た家屋はあちこちに不具合が。

「広くてのびのびできるとはいえ、冬は各部屋にストーブを置いても寒い、壁がボロボロ落ちる、設備が古い、使わない場所が多いなど、住み続けるのは難しいと感じることが多くなりました」

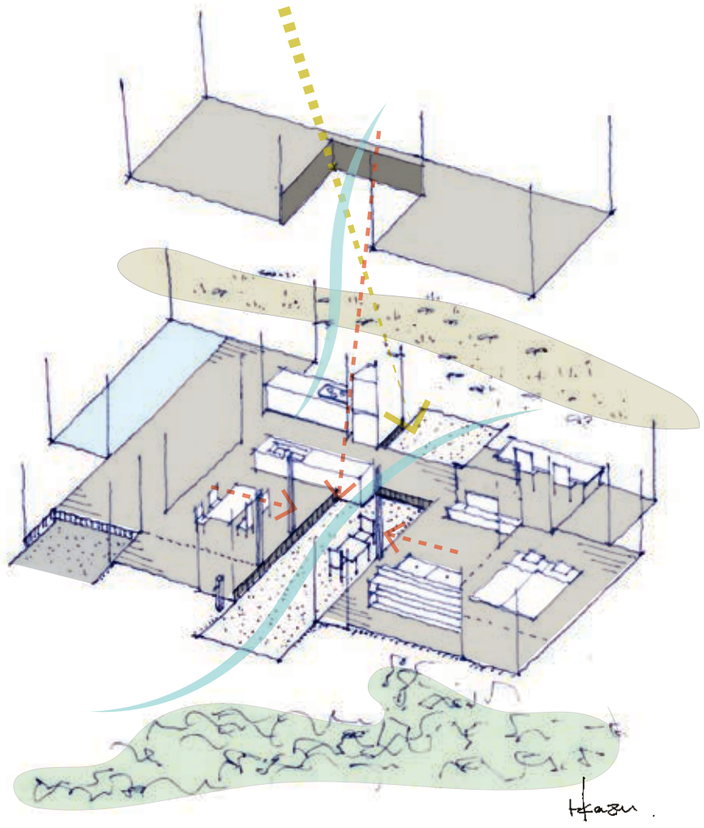
敷地一帯は市街化調整区域。間口が狭く、思うような新築がむずかしいことを知ったAさんはリノベーションを決意。インスタグラムで検索を重ね、まつけんのリフォームに出合いました。

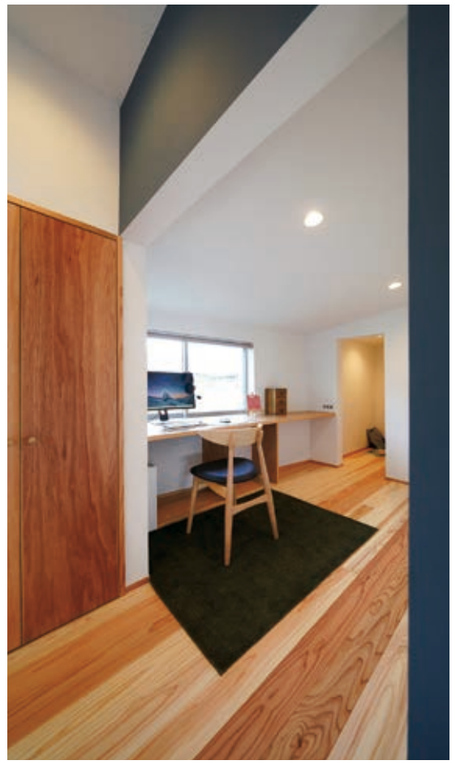
「流れの家」

市街化調整区域内の袋小路突き当たりという独特な立地にある、東西に長い２階建て。この立地を将来も周辺環境が変化しにくいメリットととらえ、内・外・高さ方向に開放感のある構成を検討。南北の軸に沿って土間を配置し、吹き抜けを設けて開放感のある明るい空間を構成した。周囲の環境と暮らしが緩やかにつながり、風と視線の行き交う、「流れ」が心地よい住まいを提案した。
また、既存の材や建具・家具を可能な限り活用し、コストダウンを図ると同時に記憶の継承を実現。リノベーションでしか表現しえない味のある空間が誕生した。

※実際の建物は右記図面から一部変更されています。

A_土間を中心に広がる開放感あふれる１階を吹き抜けから眺める。既存の構造材と新材をバランスよく組み合わせ、耐震性を向上させた。　B_外観は必要最小限の補強改修のみでコストを抑えた。





C　E　H
F｜G
D

C_リビング（右側手前）とダイニング（左側奥）を土間でつなぎ開放感がアップ。南北に光と風が渡る心地よい空間に。　D_筋交い、補強金具を施した柱。　E_既存の雪見障子を新材の鴨居と柱でモダンな間仕切りに。ダイニング天井は既存の天井板表し。高い断熱性ゆえに実現した。　F_和室からリビングを望む。和室は10畳間から6畳間に狭めて一部をリビングスペースに。既存の長押や欄間はそのまま生かした。　G_吹き抜けは子どもたちの自由なアスレチック空間にも。　H_キッチンから続くワークスペースとフリールーム。

リノベーションだからこそ

完全な新装より古材を生かした空間に

ふだんから奥様は日々を丁寧に暮らすことを大切にし、縁側越しに四季の移ろいを楽しむ時間を愛しています。ご主人はスノーボードやトレイルランに熱心に取り組み、家でギアを手入れしたり、ゆったりくつろいだりする時間も大切にしたいと思っていました。

せっかくリノベーションするのなら、奥様にとって思い出深い「おばあちゃんの家」の風情を残して改修したいというのが、夫妻の一致した考えでした。縁側、仏間などの日本的な空間や、既存の梁、柱、建具をはじめ桐箪笥や下駄箱など味わいのある調度を生かすことにより、モダンで趣深い印象になることは、ある程度想像がつきました。

ただ、お二人ともフルタイム勤務の会社員。古材が生きるちょっとレトロな空間を望む一方で、暖かく健康的で快適な生活ができる住環境は必須でした。日常の生活動線がコンパクトで家事効率がよく、掃除や片付けが楽であることは、夫妻がストレスを感じずに家時間を楽しむうえでも、子どもたちとの貴重な時間を大切にするうえでもおろそかにできません。

まつけんのリフォームでは、営業（全体のディレクション）、設計、現場が一体となり、元の家の魅力や価値を生かしながら未来へ住み継がれる住まいへと進化させることを「リノベーション」と位置づけています。それは夫妻のリノベーションへの思いと、まさに一致するものでした。インスタグラムで数え切れないほどチェックした施工事例のなかで、まつけんのリフォームが公開していたデザインや室内の雰囲気は、二人の嗜好に「一番合う」と感じたといいます。

提案されたコンセプトは「流れの家」。既存の構造材を生かして記憶を未来へつないでいく「時間の流れ」、東西に長い家の真ん中に吹き抜けの土間を設けることで生まれる「風の流れ」、開放的な空間で家族の声や視線が行き交う「交流」というように、いくつもの新しい流れが生まれる予感に満ちていました。市街化調整区域にあり、しかも袋小路という一見ネガティブな敷地環境を、「将来も景観変化が小さく外の影響を受けにくい」プラスの条件とし、南北にわたる風の動きや採光に配慮している点も二人を納得させました。

既存材と新材とのバランスが絶妙。家全体が家族の生活空間に！

元の家は仕切りが多いこともあり、室内に光が入りにくく、かなり暗い印象でした。それに慣れていた夫妻にとって、リビングやダイニングはもちろん北側のキッチンまで十分な光が注ぎ込むリノベーション後の空間は、驚くほどの明るさ。白い塗り壁が古材の風情を際立たせ、明るさに加え、モダンさと開放感を漂わせています。断熱改修により土間空間まで暖かい室内は快適そのもの。畳からフローリングに変わった床も裸足で過ごせる心地よさです。

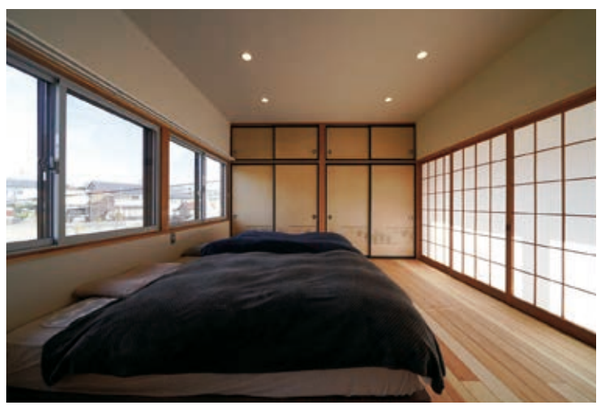
また、キッチン、水周り、ダイニングに回遊性をもたせた家事・生活動線は実に機能的。バーベキューなどを楽しめる土間スペースも一続きなので、来客時などにも効率よく対応できそうです。

「以前は家族全員がメインの８畳でじっとしていることが多く、２階はほとんど使うことがありませんでした。今は家全体が家族の生活空間。子どもたちは『ホテルみたい』とはしゃいで、家中を飛び回っていますよ」と、夫妻は生活の変化を実感しているご様子です。

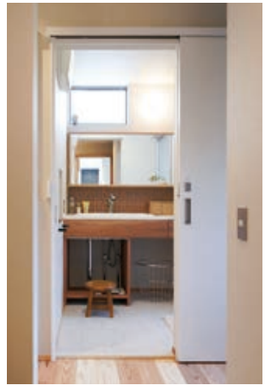
既存の建具や家具を生かすため、現場で調整した造作も各所で存在感を放っています。引き継いできた家具のサイズに合わせた可動棚、雪見障子の間仕切り、仏間の欄間、耐震補強を兼ねた目隠し擁壁など、いずれもリノベーションならではの景色であり、オーナー、設計、現場の密なコミュニケーションなしには誕生し得なかったもの。

「営業、設計、現場の誰もがいい人たちで、会うたび、言葉を交わすたびに気持ちよかったのが印象的です。もちろん、やりたいことがどんなに多くても予算には限界があります。その点も、帳尻をしっかり合わせてくれて感謝しています」

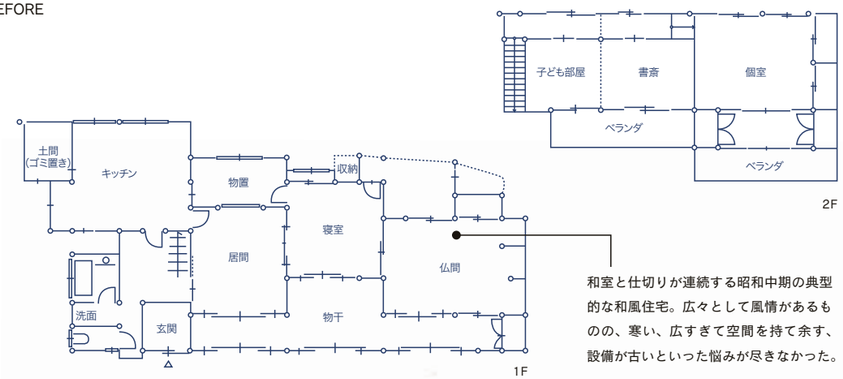
夫妻は観葉植物好き。季節を見据えながら、近年インテリアとしても注目されるビカクシダの栽培に挑戦したいと、楽しそうに語るＡさん。リノベーション空間が美しいグリーンに彩られ、一層モダンな表情をたたえるのも、間もなくです。



I_昔の家らしい北側配置のキッチンが、機能性をプラスして生まれ変わった。　J_かつて増築したサッシ＋既存のガラス窓＋断熱サッシ。昔と今が共存。　K_既存の障子、襖を生かした旅館のような寝室。　L_既存の柱、下駄箱がむしろモダンな印象の玄関。　M_水周りは動線と機能性を最優先に。　N_玄関と縁側の間の壁に窓を設けて明るく。　O_既存の家具、調度を生かすためにあつらえた造作が随所に光る。



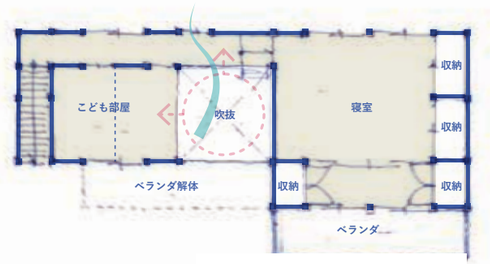
BEFORE

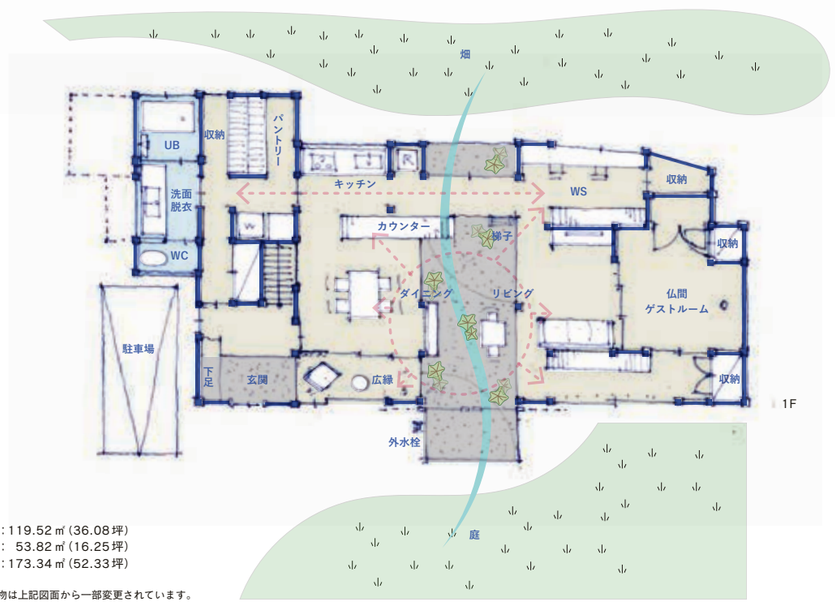


和室と仕切りが連続する昭和中期の典型的な和風住宅。広々として風情があるものの、寒い、広すぎて空間を持て余す、設備が古いといった悩みが尽きなかった。

AFTER

耐震性能、断熱性能を向上させ、安全で健康的な住空間が実現。さらに水周りと家事動線の全面改修により、暮らしやすさが大幅に向上した。





DATA

1F床面積：119.52㎡（36.08坪）
2F床面積：　53.82㎡（16.25坪）
延床面積　：173.34㎡（52.33坪）

※実際の建物は上記図面から一部変更されています。

受賞物件のご紹介

CASE STUDY

長野市

暮らしと仕事の場をつなぐ 中庭のある家

築50年超、代々のオーナーが増改築を重ねてきた100坪余りの和風住宅をリノベーション。中庭を生かし、家族の居住空間とカメラマンのご主人の仕事場が緩やかにつながる暮らしやすい住まいに。「LIXILメンバーズコンテスト2023」リフォーム部門グランプリ候補（2023年12月現在）

LIXIL MEMBERS CONTEST 2023
リフォーム部門
グランプリ候補

デザイン協力：トベアーキテクト一級建築士事務所

まつけんのリフォーム（松代建設工業株式会社）　長野市青木島 1-2-1　0120-018416　https://matuken-reform.jp